

春日井市地域自立支援協議会日中活動部会のこれまで

1 発 足

相談支援事業所等に日中通う場がない、どこの事業所も定員がいっぱいで入れないという相談が多く寄せられ、特に地域の養護学校を卒業してくる方の日中活動の場は不足しているのではないか？という課題が抽出され、平成22年7月、第2期の第1回春日井市地域自立支援協議会にて日中活動部会発足の承認が得られた。

2 経 過

(1) 部会委員

会長が指名した機関は次の通りであり、現在に至っている。

- ア 障がい者生活支援センターかすがい
- イ 第2希望の家
- ウ ワーカー鷹来
- エ なかぎりワークス
- オ 夢の家
- カ 春日井市手をつなぐ育成会
- キ 春日井市肢体不自由児・者父母の会
- ク 春日台養護学校
- ケ 春日井ハローワーク
- コ 尾張北部障がい者就業・生活支援センターようわ
- サ 尾張北部圏域地域アドバイザー
事務局（健康福祉部障がい福祉課）

(2) 初回開催

平成22年10月12日

- ・意見交換、今後の取り組みについて協議を行った。

(3) 当初の意見集約

部会委員より大きく4つが挙げられた。

ア 日中活動の支援システムを作るべきである

- ・どこの事業所も定員いっぱい、市外に通所している方もいる。
- ・毎年養護学校の先生が、対事業所と交渉しているので市内事業所全体で把握しながら、受け入れについて共有化できるとよいのでは。

- 一般就労したい希望者がいない。もう一度チャレンジして、就労できても失敗した場合に、今の事業所に戻れるのか不安という声が多い。通所施設には出口がない、そこを考えないと解決しない。
- 新たに施設を開設（建物）しても、また定員がいっぱいになるだけだと思ふ。利用者が循環できるシステムがいると思ふ。

イ 就労支援

- 一般就労の方の定着支援に力を入れるべきである。働ける方をいかに離職させないかという視点も必要だ。先生や支援センターのマンパワーだけでは難しい。
- 体力面、精神面で離職した方を受け入れる体制がない、事業所がないと思われる。養護学校卒業生の行先に加えて考えておくべきである。
- 福祉施設からの就職率の低さを考えるべき。定員は空かない。

ウ 資源開発

- 新たに施設が増えることを待つだけではなく、市内全体で障がいをもつ方が活躍できる場を提供することが重要。
- 各法人の垣根を越えた活動ができれば、各事業所の定員は空かないか。

エ 施策への提言

- 不足しているという事態は、市へ伝えなければならない。どの程度足りないのか、これからどうなっていくのか捉えていくため、現状を知るべきである。

(4) 日中活動系事業所の現況調査、養護学校卒業生の推計からの検証

(3) の意見より、まずやれることとして市内の日中活動系事業所の現況を調査（アンケート）、地域の養護学校（春日台養護、小牧養護）からの卒業生の推計を比較し、過不足の検証を行ってきた。

以下の通りで、今まで **3回**実施している。

ア	1回目	平成22年	12月
イ	2回目	平成23年	4月
ウ	3回目	平成24年	4月

※毎年度事業所も、卒業生の数も変化があるため毎年調査を行なうこととした。

(5) 市内日中活動系事業所施設長会議開催

過不足の検証結果をもとに、市内全体で地域課題を共有化していくため今まで2回の施設長会議を以下の通り開催した。

ア 平成24年 1月10日

- 現状の課題を共有し、各法人、事業所の今後の経営に参考としていただいた。

- ・量の問題だけではなく、何かみんなで取り組めるものが出てくるといいという意見がある。

イ 平成24年12月11日

- ・現状を共有する。前回の会議からの検証の変化について報告する。事業所ごとで利用者を受け入れる体制に開きがあることや、事業所は増えているのに利用者が利用しきれていない現状を踏まえ、各事業所での現場の質を高めていくことも重要であることを報告。創作介護系事業所と作業系事業所に分かれ、グループワークを行った。

(6) これまでの結果、現状、効果

- ア 2回目の検証結果を春日井市施策推進協議会へ提言し、第2次春日井市障がい者総合福祉計画の中の見込み数に反映ができた。
- イ 現状では、事業所数は増加傾向にあるものの、障がいが重い方が通える場は依然足りておらず、不足している。
- ウ 事業所数は増えているのに、利用者がうまく利用しきれていない現状が見られる。
- エ 希望する事業所を利用したくても利用できず、希望と相違する事業所に通っている、市外の事業所を利用しているケースもある。
- オ 就労移行支援事業所が有効活用されていない。

(7) 現在の意見集約からみえていること

- ア 毎年度日中活動の場の過不足について検証を行い、全体で共有を図っていくこと。(合意事項)
- イ 地域課題を共有化するなかで、量ばかりを検証して協議していくのではなく、各法人、事業所の質を春日井市全体で向上させるため、今後勉強会、研修会を開催していく。(合意事項)
なお、勉強会、研修会の開催方法は、今年1月にとったアンケートをもとに部会で検討し、来年度施設長(管理者)向けと現場(従業員)向けの研修と分けて開催する方向になっている。
- ウ 市内全体の日中活動系事業所で、勉強会、研修会を取り組んでいくなかで質が高まっていくと同時に、地域課題に取り組む意識も高まり新たな資源開発、改善が生まれてくることを期待したい。
- エ 部会発足当時に積み残している課題でもある就労支援について整理できていない。